

都内に通勤、スローライフも満喫

転職しない移住を実現した黛さんファミリー。電車でもマイカーでもラクラク通勤できてストレスフリー。田園風景の広がる中で、スローな暮らしを満喫している。

Profile

黛 泰輔さん・彩子さん

埼玉県鴻巣市 ⇨ 明和町 (2017年移住)

泰輔さん・彩子さん夫婦と、想太君(中3)・咲南さん(小6)の4人家族。泰輔さんは移住前と同じ職場まで電車で約1時間半、マイカーで約1時間の通勤時間。彩子さんは埼玉県羽生市に職を得て約20分のマイカー通勤。休日には、サイクリングや庭でのBBQを楽しんでいる。

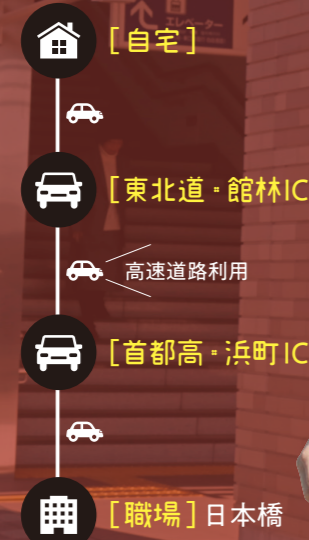


黛さんの通勤ライフ

電車の場合
(1時間35分)



マイカーの場合
(約1時間)



田園風景の広がる田舎に住みたい

実家が明和町という彩子さんは、家を建てるなら都会ではなく田園風景の広がる場所がいいと願っていた。泰輔さんの通勤圏で彩子さんの希望も考慮し、埼玉県北部から群馬県南東部で土地を探していたところ、希望条件を満たした土地が見つかった。川俣駅から約300m、目の前には広々とした田園風景という絶好の場所だった。

「日当たりがいいので冬は暖房がいらないくらいなんです」と彩子さん。約100坪の土地に建てた住宅は、泰輔さんと彩子さんのこだわりが随所に感じられる。南向きの大きな窓からは陽光がさんさんとふり注ぎ、窓の外には見渡す限りに広がる四季折々の田園風景。リビングにつながるウッドデッキは開放感いっぱい、庭で植物を育てたり、バーベキューを楽しんだり、家族のくつろぎの時間を演出する。集合住宅や住宅密集地では音が気になるピアノの練習も、ここなら気兼ねなく弾ける。

近くの利根川の土手にあるサイクリングロードからは、富士山も眺められ、サイクリング好きの一家にはぴったり。休日には、一家でサイクリングに出かけることも多く、群馬・栃木・埼玉・茨城の4県にまたがる広大な渡良瀬遊水地を自転車で巡ったこともあるという。

ますます便利に、快適になるまち

移住して6年、これまで特に困ったことなどはないが、近年の都市化だけは想定外だったという。

再開発が進む川俣駅周辺には、2021年に明和セントラル病院が開業。2023年オープン予定のホテル温浴複合施設の建設も進む。道路も拡幅され、国道122号バイパス沿いには大型ショッピングセンターも近々開店する。

「田舎町だと思っていたので、どんどん開発が進んでいることは驚きです。病院まで歩いて行けるようになったのは特にうれしい。買い物も、館林市や埼玉県羽生

市まで出かけても10分かんからなくらいでしたが、もっと便利になりますね」と彩子さん。泰輔さんは「ロードサイドには新しいお店もできるでしょうし、温泉施設ができるのも楽しみです。どんなに都市化が進んでも、町民に対して対応が手厚く、早いことなどは小さな町ならではの」と、明和町の住みよさを語る。

自然環境の良さと便利で快適な住環境が両立する明和町への移住は、黛さん一家にとって大正解だったようだ。



1. 電車通勤は家から徒歩2分の川俣駅が最寄り。職場までドアtoドアで1時間35分。川俣駅から朝6時台には浅草駅までの直通列車が10分おきに走る。
2. 高校時代に同級生として知り合った黛さん夫妻。移住当時、小学4年生だった長男の想太君も入学したての咲南さんも、すぐに学校になじみ、子ども会の行事を通して親同士も親しくなった。
3. 平屋建ての黛邸は目の前に遮るものがなく、開放的なウッドデッキや庭が休日の楽しみを広がってくれる。

都心の職場までラクラク通勤

都心の会社に勤務する泰輔さんは、彩子さんとの結婚を機に埼玉県鴻巣市に居を構え、以来10年間、同市の集合住宅で暮らした。明和町に移住したのは6年前。長女・咲南さんの小学校入学のタイミン

グで土地を購入し、一戸建てを建てて移住した。「職場まで通勤できることが決め手でした。移住前には、JR鴻巣駅から日本橋の職場まで約1時間20分、電車はいつも混んでいて座れたことがなかったんです。ここなら最寄りの東武伊勢崎線・川俣駅から座って通勤でき、所要時間も10分程度の違いです。毎日のことなので、ストレス

のかかり方が違いますね」と泰輔さん。コロナ禍以降はマイカー中心の通勤に切り替えた。高速道路を使い、最寄りの東北道・館林ICから乗って首都高・浜町ICで降りる。渋滞する時間を避けて5時半に家を出るので、6時半には出社できるという。職場を変えることなく、庭付き一戸建てに住むという夢を叶えることができた。



マイホームを建てたい!

マイホームを建てて移住した黛さんファミリー。右図のように、群馬県の土地付住宅の購入費は東京と比べて断然安く、敷地面積は東京の約2.5倍。庭でガーデニングを楽しむ人も全国一多い※1。

なかでも平地の広がる太田・館林・邑楽地域は、可住面積も県内他地域より圧倒的に広い。

※1 社会生活基本調査47都道府県ランキング (R3)
 ※2 住宅金融支援機構・フラット35利用者調査 (R2)
 ※3 総務省・統計でみる都道府県のすがた (H30)

住宅購入資金 ※2

¥3702.1万

群馬9位

※土地付注文住宅

東京47位/¥6110.0万

住宅の敷地面積 ※3

群馬9位 338㎡

※1住宅あたり

東京46位/139㎡

